

平成30年度第1回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

1 会議名 平成30年度第1回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議

2 開催日時 平成30年7月23日(月) 14時00分から15時30分まで

3 開催場所 一関市役所 2階大会議室B

4 出席者

(1) 委員

熱海淑子、小野寺真澄、小野寺徳雄、千葉順子、佐藤善子、梁川甲午、滝上亜寿香、
千葉実、小家文彦、渡邊美紀子、浅野裕美、阿部儀信

欠席委員 佐藤和美、藤田美菜子、佐藤馨、加藤慶一、野村勉

(2) 事務局

石川隆明市長公室長、佐藤正幸政策企画課長、小野寺愛人財政課長、

佐藤マチ子政策企画課主幹、宍戸勝幸政策企画課政策企画係長、

加藤高明財政課主任主事、梁田潤農林部政策推進監、

千田浩一商業観光課課長補佐、山谷英樹工業課工業振興係長、

坂本光司文化財課文化財係長、岩渕美紀大東支所地域振興課地域協働係長

5 議 題

(1) 総合戦略推進に係る年間スケジュールについて

(2) 地方創生関連交付金対象事業の実施状況について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者の数 0人

8 協議内容

(1) 総合戦略推進に係る年間スケジュールについて

資料No.1「総合戦略推進に係る年間スケジュール」により事務局から説明を行った。

以下、質疑応答及び委員からの意見等。

座 長 昨年度とほぼ同じということか。

事務局 そのとおりである。

(2) 地方創生関連交付金事業の実施状況について

資料No.2「地方創生関連交付金事業の実施状況」により事務局から説明を行った。

以下、質疑応答及び委員からの意見等。

① 一関・平泉定住自立圏域における地域連携DMO設立プロジェクト

委員 学生たちは地域の観光にほとんど行っていない。一関から就職や進学で他の地域に行く際に、一関のこの行事が魅力的だとか、ここがおすすめだとか言えない。一関の観光資源についての説明ができるだけの知識を身に付けておくことが重要である。また、DMOのセミナーに参加した人の満足度については調査したか。当地域の観光地が選ばれるようにするための方策として、具体的にどのようなことをしていくのか。友好都市との連携はどのようなことをしているか。

事務局 DMOのセミナーについてのアンケートはとっていなかった。次回以降は、検討する。インバウンド、特に台湾からの観光客数が伸びており、様々なプロモーション活動を行っている。国内の姉妹都市や友好都市についても、観光・物産展を行い、誘客を図っている。

座長 地方創生に資する事業効果としてはどのようなものがあるか。

事務局 DMOが設立されたということが大きな事業効果であり、設立の過程で地域の強みや弱みを分析し、戦略を立てられたということが挙げられる。

委員 DMOの設立時期が平成30年4月なので、それ以前の観光客数の増加については、DMOの母体である推進協議会が、DMOの設立までに並行して何らかの取組をしたものと思うが、関連性が見えにくい。

事務局 これからのDMOについては、閑散期対策や滞在型観光に取り組んだ結果が今年度以降の数値に影響してくると思う。

委員 設立したDMOについて、特徴などはあるか。

事務局 地域連携DMOということで、自治体2つをまたいでいる。県内で2つ以上をまたぐDMOは、三陸DMOについて2例目である。

委員 新幹線で来る観光客から1時間程度で見られる場所についての要望が多い。ガイドの会からは、一関の観光をまとめたDVDを放映する場所があればよいのではないかと聞いている。一度そのようなものを見てから、実際に観光地に行くとりピーターが増えるのではないかと思う。

② ものづくり産業技術開発推進事業

委員 指標「従業員1人当たりの粗付加価値額」のような、結果が出るのが遅い指標を設定するよりも、早く出るものを設定したほうがよいと思う。

事務局 次回の設定の際には、その辺を考慮する。

委員 指標「新製品・新技術の開発件数」について、実績に対し、平成32年までに目標達成するための取組が見えてこない。

事務局 指標「新製品・新技術の開発件数」について、連携した事業はあるのだが、全てが新製品・新技術に結びつくものではない状況である。

③ 資源・エネルギー循環型社会形成支援事業

委員 「一関市木材カスケード利用協働協議会」と「木の駅の設置」は、5か年計画だと、どの位の時期になるか。

事務局 「木の駅」については、市民の皆さんに薪づくりをしてもらうための拠点の整備・準備をしているところ。公共事業で伐採されたもの等、薪に適した雑木などの情報をいただきながら市民の皆さんに薪を作っていただき、2年位乾燥して、それが売れるものになる準備ができた段階で「木の駅」「薪の駅」を設置したいと考えている。カスケード協議会については、今年6月に発足し、林業関係事業者や建築、設計業者も参画して、地域の活動にご理解をいただくことになっている。

委員 指標「集材活動による木質資源販売量」について、32年度の目標が前年度に比べ大幅に増となっているが、何か計画があるのか。

事務局 現在、エネルギー利用は、千厩小学校のみとなっており、多くは紙パルプ原料として供給されている状況であるが、31年度から32年度の数字については、バイオマス構想でチップによる発電プラントが建設される計画にそって想定した数字であるが、現在、東北電力との接続関係の手続きについて遅れが生じている状況である。

委員 千厩小学校のチップボイラーでの利用とのことだが、千厩地域での活動はどうか。

事務局 山村振興法に基づく山村振興地域ということで、指定になっているエリアが市内に数か所あり活動しているが、千厩地域にはない。

④ 旧渋民小学校校舎利活用事業

委員 歴史民俗資料館ができた後、説明する人を常駐させるのか。

事務局 芦東山記念館の学芸員が兼務となるほか、市民ボランティアが説明や子ども達の体験活動の補助をしていく。

委員 展示資料は既に集められているのか。どのような資料館を目指すのか。

事務局 スペースが限られるため、展示だけでなく体験活動を中心にと考えている。

委員 指標「総合学習等教育面での利活用件数」について、目標達成の見込みはあるのか。

事務局 小学生（特に3年生）と中学生の利用を見込んでいる。

委員 歴史民俗資料館は、入館料があるか。

事務局 無料の予定である。

⑤ 全体

委員 PDCAにより結果を求め、交付金を効果的に使うようにしてほしい。

市長公室長 結果重視で今後配慮しながら事業展開に当たっていききたい。

9 担当課 市長公室政策企画課